



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

# 鶴鳥イ言

平 衡  
三 学 年 主 任 大 山 毅

「平成最後の...」というフレーズがいろいろな所から聞こえてくる。今年度の体育祭のドリームのテーマも「平成最後のドリーム」であった。私が教員としてスタートした一年目は昭和六十三年でこの年度の一月に平成元年となった年であるため、平成の始まりは強く印象に残っている。平成はどんな時代だったのかと振り返ってみたい。

教員となる前年はバブル経済の前兆と見られる好景気であった。就職活動も超売り手市場の状態、入社試験を受けることとほぼ合格し内定を複数得ることも可能であった。しかし、大学の先生方からは、「いくつもの内定を断ることはその企業からの信用を失うことになり、不景気になると求人が来なくなる。だからそのような就職活動はやめなさい。」と言われていた。高度経済成長の時代やオイルショック後の不況の時代も経験されていたため、これから先を見通した指導であつたと思う。

そんな中で、教員採用試験を受験した。面接のとき教育における「不易流行」とは何か問われたことを思い出す。多くの勉強不足で、うまく答えることができなかった。松尾芭蕉の俳諧の心構えをまとめた「去来抄」に「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」と記されている言葉がもとであることを知った。「不易」とは時代が移っても変わらない物事、「流行」は時代によって移り変わる物事のことであり、よい俳句を作るためには、この相反する二つのことが欠かせないということである。つまり、「どんな時代であつても変化しない本質や価値観に、時代によって新しく生まれてくる価値観を取り入れること」でよい俳句が作れる」ということである。教育においても変えてはならない根本的な部分と、新しく取り入れなければならない部分があり、責務を果たさなければならない部分がある。

が我々も日々謙虚に学んでいかなければよい教員にはならないよと伝えたかったのだと思う。

たしかに、平成という時代は様々な変化が生じた。パソコンの性能の向上、様々な通信機器や便利な家電の普及などは日常生活を一変させた。担当教科である化学の教科書の内容も変化した。周期表の族・気体定数・圧力の単位・リットルの記号の変更やグラム当量・規定度の廃止など、国際的に通用する扱いになってきている。今後も、様々な変更が考えられる。そのため、教材の更新が毎年必要になってくる。しかし、本質的なものは変わらない。人間が決めた呼び方や単位は変わっても、原理や法則は変わらない。化学の重要な原理である「平衡移動の原理」は「不易流行」と近いものがあると感じている。

平衡とは可逆反応が釣りあつた状態を表す言葉で、それが移動するというのは、反応系の環境が変化すれば、それを和らげる方向へ反応が進み、新たな平衡状態になることを意味している。つまり、反応の本質は失われないが、周りの変化に合わせて新しい平衡状態になる。例えば、石灰岩の山に二酸化炭素を含んだ雨が降ると、石灰岩が溶解し鍾乳洞となる。鍾乳洞の中で二酸化炭素を含んだ水から二酸化炭素が抜けると再び石灰岩が生じる。これが鍾乳洞である。二酸化炭



1月1日に行われた恒例の「初日を拜む会」生徒たちは互いの健闘を誓い合った。

## 3月の行事予定

3 月		食 堂
1	金 第70回卒業式	×
2	㊥ 1年スタディサポート	×
3	㊦	×
4	月 全校朝会 スクールカウンセリング 1年救命救急法短期講習	○
5	火 入学学力検査会場設営	○
6	水 入学学力検査	×
7	木 入学学力検査	×
8	金 国公立大学中期日程試験(3/8~)	×
9	㊥	×
10	㊦	×
11	月	×
12	火 第11回職員会議 国公立大学後期日程試験(3/12~)	×
13	水 学校安全の日	○
14	木 合格者発表	○
15	金 合格者集合	○
16	㊥ 悠学講座㊦	×
17	㊦	×
18	月 学年朝会 第12回職員会議	○
19	火 スクールカウンセリング	○
20	水	○
21	㊦ 春分の日	×
22	金 合格体験を聞く会	○
23	㊥	×
24	㊦	×
25	月 終業式 大掃除 復習考查時間割発表	×
26	火	×
27	水	×
28	木 離任式	×
29	金	×
30	㊥	×
31	㊦	×

### 最優秀賞に高城さん、 高校生の思いを語る。

#### 第二十四回 校内弁論大会

今年度の校内弁論大会が二月十三日(水)に実施された。一・二年生の代表各三名、計六名の弁士が、自分の考えや思いを熱く語った。審査の結果、最優秀賞に高城琴音さん(二三R)が、優秀賞には中村怜さん(二五R)と有村麻亜利さん(二二R)が選出された。



素が多くなると石灰岩が溶け、二酸化炭素が少なくなると石灰岩が再び生じる。今現在も鍾乳洞は変化し続けている。芭蕉が俳句の世界で唱えた考え方が、自然界の様々な現象と共通していると考えられる。非常に興味深い。

鶴丸高校七十回生のみなさん。卒業おめでとうございます。まさしく新しい時代の主役は皆さんです。明治維新の原動力を生み出した鹿児島という環境で育つたことを忘れずに、様々なことにチャレンジしてください。その際、自分の目標は何かを見失うことなく、時代の変化に対応しながらそれに埋もれることなく、うまく平衡を保ってください。そうすることで良い俳句が作れる、つまり良い人生を送れると確信しています。これから皆さんの活躍を期待しています。

### 「親友って?」 23R 高城 琴音

皆さんには「親友」と呼べる存在がありますか。あるのならば、何人くらいですか。反対に、私はどうなのかと自分の胸に問いかけてみると、はつきりした答えは出ないのです。

「三年間ありがとう。高校生になっても親友でいてね!」この間久しぶりに開いた中学校の卒業アルバムの寄せ書きのページには、こう記されています。何気なく読み飛ばしてしまいましたが、その言葉が目に留まりました。そう、「親友」という言葉です。私はこの二文字を見て、複雑な心境になりました。「親友」と思ってくれれば信頼してくれていただくと純粋に喜ぶ心情。そして一方で「私自身はこの友人のことを親友とまで思っていないのだらうか?」と過去の自分を振り返って首をひねりたくなくなってしまふ心情。この二つが心の中で大きく渦を巻いていたのです。自分のことを親友とまで言ってくれる人物を言外に否定するような私を、皆さんは「なんて友達甲斐のない非情な人間なんだ!」と思っているかもしれません。しかし皆さん、考えてみてください。親友と友達の違いって何だと考えますか?私には、親友と友人の境界線が分かりません。

小学生の頃、友達に書いてと頼まれたプロフィール帳に「あなたの親友は?」という欄を見つけたときや、中学生の頃、友達と一緒に撮ったプリクラに「親友」というデコレーションの文字を見たときなど。かなり前からこの「親友」と友人の境界線問題は私を悩ませてきました。

「親友」の定義はともかく、この言葉そのものは至ってシンプルで、小学校低学年の子だつて知っているでしょう。アニメでも本でも、主人公の傍にいるのはほとんどの場合親友です。一緒に困難に立ち向かって夢を叶えたり、悩みを共有しあったり。たまに勃発するケンカだつて、利己的な気持ちからではなく相手のことを思う気持ちから。彼らは互いに心を許し、本当の

自分を見せつけ出す、そんな素敵な関係を築いています。これが私の思い描く、そして皆さんが思い描くものとも大差ないであろう「親友」の像です。もしこれが正しいのであれば、残念ながら私には親友がいないことになってしまいます。重ねて言いますが、どうか冷淡な人間だと思わないでください。気兼ねなく話ができる友人はもちろん大勢いるのです。しかし、本当の、猫をかぶっていない、飾らない自分を見せて引かれたくない、嫌われたくないという思いがどうしようも先に立ってしまった、先ほど述べた「親友」のように自分をさらけ出すことなど到底できません。

辞書で「親友」と調べてみても、私の想像と大同小異でした。「小さい時は常に行動を共にし、長じては何事をも打ち明けることのできる人物」と、こう記されてあつたのです。

では、「友人」とは何なのでしょう。仲は良いけれど親友には劣る存在でしよ、と半ばやけになりながら辞書を引いた私の目に飛び込んできたのは、こんな言葉でした。「気持ちの通い合っている人、親しく対等に交わっている人。」「親友って何なんだろう」と考えたつとも、同時に卒業アルバムに「親友」と記してくれたあの友人のように誰かを「親友」といえる人は羨ましいなあ、親友がいなくて残念な人間なんじゃないだろうか、と思っていた私にとって、この文句は一筋の光明、いえ、眩いほどの光を放つて見えました。気持ちの通い合い、そして何より対等である。友人という関係であっても良好な人間関係の基礎がきちんと網羅されているではありませんか。

「親友と友人の境界線問題」はまだ決着を見せていません。しかしおそろしくこの両者の間には明確な基準などなく、決着がつくつかないといった類のものではないのでしょうか。私はそう考えることにしました。親友がいなくても決して残念がる必要はないのです。もちろん何でもさらけ出せる存在があるのは素敵なことではあります。対等な関係の友人が大勢いるのも負けず素敵なことではないのでしょうか。「友人」の輪を広げ、そして一方では誰かに「親友」と評してもらいたいのです。自分の生涯の中で胸を張って親友だと言える人物に出会えるその日まで。



「親友」の定義についてわかりやすく表現し、多くの生徒の共感を得た。